

グアテマラ内政・外交（2011年11月）

平成24年1月
在グアテマラ日本国大使館

1. 概要

内政面では、6日に大統領選挙の決選投票が概ね平穩裡に行われ、前回選挙でコロン大統領に敗北したペレス・モリーナ愛国党(PP)候補が得票率 54.48%を得て、9月に行われた第1回投票以降急速に勢いを増したバルディソン自由民主革新党(LIDER)候補(得票率 45.52%)に対し勝利を収めた。9日、与党国民希望党(UNE)に所属するアレホス国会議長は、UNE 執行部の方針に対する不満を理由に自らを含む同党議員(現職及び次期)計8名が離党する決定を下した旨発表した。

治安面では、麻薬密輸容疑で米国から当国に引き渡し要求が出されているエリオ・ロレンサーナ容疑者がサカパ県で逮捕された(8日)。

2. 内政

(1) 2011年大統領選挙決選投票の実施と結果

(ア)6日、2011年グアテマラ大統領選挙決選投票は概ね平穩裡に実施された。同日午後9時過ぎ、最高選挙裁判所(TSE)は下記開票結果(開票率 95.96%)を発表すると共に、この開票結果から実質的にペレス・モリーナ PP 候補が新大統領として選出された等表明した。

(a)ペレス・モリーナPP候補 ----- 2,239,954 票 (54.48%)

(b)バルディソンLIDER候補 ----- 1,871,897 票 (45.52%)

(イ)同日午後10時過ぎ、バルディソン LIDER 候補が敗北宣言を行ったのに続き、ペレス・モリーナ PP 候補も勝利宣言を行った。バルディソン LIDER 候補は記者会見で、「LIDER は(設立から)一年間未滿にも関わらず政党としての団結を達成し世論調査でも支持率を上昇するなど素晴らしい成功を収めた。」、「対立候補(ペレス・モリーナ候補)を祝福すると共に、国のためその幸運を祈る。条件付支援金交付制度(Mi Familia Progres), 農業産品の購入、肥料の農民への提供、増税や債務拡大はなし、プロパンガスや砂糖価格の抑制、治安改善などの公約を是非とも実現して欲しい。」、「本日からは野党リーダーであり自分の支持者に対してはグアテマラ国民の側に立つよう要請する。」等述べた。一方、同日午後10時35分過ぎ、ペレス・モリーナ PP 候補はバルデッティ副大統領候補等を伴った記者会見で、「自分に投票してくれた二百二十万人以上の有権者に感謝したい。当国の選挙で候補者が二百万以上の得票を得たのは初めてである。同時に当国で女性が副大統領として選ばれたのも初めてである。投票してくれた人々に対し、自分は諸々の目標を達成しより均衡がとれ国民が誇りに思える国を達成するまでは頑張ることをここに表明したい。」、「治安問題は最優先課題とし自分の時間の70-75%を費やす。大統領就任の初日からこの課題に取り組みたい。具体的には、メキシコや中米諸国との連携を強化することで組織犯罪に対応していきたい。」等述べた。

(ウ)6日午後10時過ぎ、ボルドン OAS 選挙監視団長は記者会見で、「今次選挙は平和裡かつ透明に行われ大変満足している。」、「第一回投票では投票データの伝達などについて問題があったがこれらの問題は決

選投票においては克服され、集計が始まってから約2時間半で事実上次期大統領が判明した。これはグアテマラの民主主義が進展した証で祝福したい。」等述べた。

(エ)2011年当国大統領選挙につき各国は、6日夜、フネス・エルサルバドル大統領及びロボ・ホンジュラス大統領がそれぞれペレス・モリーナ次期大統領に対し電話で祝意を表すると共に、治安・組織犯罪・麻薬犯罪対策を中心とする政策への支援継続を表明した。同日夜には、ベネズエラのチャベス大統領も電話でペレス・モリーナ次期大統領に対し祝意を表明した。また当地米国大使館も同日、当国において平和な選挙が実施されたことを祝しグアテマラ政府への支援を継続するとのコミュニケを発表した。

(オ)17日、最高選挙裁判所(TSE)は決選投票の公式結果を以下の通り発表した。(投票率 60.82% (2007年選挙では同 48%。))

(a)ペレス・モリーナPP候補 ----- 2,300,998 票(53.74%)

(b)バルディソンLIDER候補 ----- 1,981,048 票(46.26%)

(カ)25日、ペレス・モリーナ次期大統領は、発表が待たれていた最後の閣僚人事である国防大臣ポストにアンスエト Adolfo V. Hall 軍事学校チキムラ県校校長(大佐)を充てる旨発表し、右を以てペレス・モリーナ次期政権の閣僚人事の指名(13閣僚及び新規設立予定の社会開発大臣ポストの計14閣僚)が全て終了した。

(2)コロン大統領インタビュー記事(7日付エル・ペリオディコ紙)

(ア)(社会プログラム改善について)過去20年以上行政に携わってきたが、行政上これ程きちんと整えられたプログラムを経験したことはかつてなかった。今後はそれを維持し拡大することが必要である。

(イ)(政権発足時に約束した70万の雇用創出は)新婦のウエディング・ドレスがまだ整っていなかった。つまり予算がなかったのである。中小企業推進はできたが、当初目指したようには(雇用創出は)実現できなかった。言い訳の仕様もない。

(ウ)(与党国民希望党(UNE)からの去就について)他のことをやってみたい。党には所属し続け引き続き支援はするつもりだが、これまで同様新しい指導層を尊重していきたい。

(エ)(サンドラ・トーレス元夫人が今後党の新指導部になるのか)そういう話も聞く。大統領就任時に自分は党務から一切手を引いた。今後は党を助けるつもりである。一方で自分は中米地域における治安プロジェクトに関わりたいと思っている。

(オ)(ペレス・モリーナ候補は現政権の汚職に厳しく対応すると表明しているが心配か)心配はしていない。証拠があるのであれば法律を犯した人間は然るべく処分されるべきである。しかしながら、愛国党(PP)はこの三年間、問題を指摘しつつも告発できたことはなかった。

(カ)(最大の成果)社会連帯審議会である。その他の国でも同様の政策を行っているが、グアテマラのものが唯一、統合的な政策としてプログラムを実施している。

(キ)(次期政権の最大の課題)犯罪組織幹部の逮捕及び麻薬押収量の拡大である。次期政権は現政権の成果と比較され評価が下されるだろう。

(3)与党国民希望党(UNE)関連動向

(ア)9日午前、サンドラ・トーレス元大統領夫人は UNE 関係者及び同党所属議員等を伴った記者会見で、「我が党は国会第二勢力となり、全国レベルでも最大勢力として最大野党の立場にある。党組織としても非常に強固な党である。今後は、これまでの愛国党(PP)のように「破壊的な(destructiva)」野党ではなく「建設的な

(constructiva)野党となり、同次期政権による政策、とりわけ社会政策関連プログラムの継続を注意深く監視する。」「(現政権関係者の汚職容疑は徹底的に追及するとのペレス・モリーナ次期大統領の発言につき問われたのに対し)これまでも言ってるがクリーンな人間には石鹸さえ必要ない。これまで彼らは何の告発もしていない。彼らは国を統治するためにしっかりしたチームを組んで選挙戦での公約履行に力を注げばいいのである。彼らが目論む対立や魔女狩りをしている場合ではないはずである。」等述べた。なお、同元大統領夫人が公の場で発言するのは2011年8月に大統領選挙への出馬資格が却下されて以来初めて。

(イ)一方、同日午後、アレホス国会議長は与党UNEの国会幹部を伴った記者会見においてUNE執行部の方針に対する不満を理由に同党議員(現職及び次期)計8名が離党する決定を下した旨発表し、「(UNEからの)離党の理由は、UNE執行部が国会法案に対し反対する方針を発表したこと、LIDERによる大臣に対する国会質問要求であり、これらは2012年予算案の審議及び成立を危うくさせると判断したためである。このUNE執行部の方針に賛成できないためその他党関係者と共に離党の決定を下した。無所属として中立の立場を維持する。」「自分たちはサンドラ・トーレス元大統領夫人とは何の問題もない。」「その他の議員に対してもこの新しいグループに加わるよう呼び掛けており、今後、更に9~10名が加わる予定である。目指しているのは、各党からの離党ではなく、国のためのアジェンダを考えられる独立性を有する立場である。」等述べた。

3. 治安情勢関連等

(1)大物麻薬密輸容疑者エリオ・ロレンサーナの逮捕

(ア)8日午前6過ぎ、サカパ県ウイテ市エル・ジャノ村において、麻薬密輸容疑で米国から当国に引き渡し要求が出されているエリオ・ロレンサーナ(Elio Lorenzana)容疑者(39才)が自宅で米国麻薬取締局(DEA)の支援を受けた当国治安当局により逮捕され、その後グアテマラ市内のマタモロス国軍司令部内に設けられた刑務所施設へ収容された。同刑務所には2011年4月に同じ容疑で逮捕された父親のワルデマル・ロレンサーナ・リマ容疑者も収監されている。メノカル内務大臣は、同容疑者に対しては麻薬密輸容疑で米コロンビア特別区裁判所から引き渡し要求が出されている旨述べた。なお同じく米国から引き渡し要求が出されている同容疑者の兄弟(Haroldo Lorenzana 及び Waldemar Lorenzana Cordon)は現在も逃亡中。逮捕されたエリオ・ロレンサーナ容疑者は自分は牧畜業者に過ぎないとし無実を主張した。

(イ)米国当局によると、ロレンサーナ・ファミリーと麻薬密輸グループを率いるオット・エレナ・ガルシア(グアテマラ人、メキシコの「ゴルフ・カルテル」の当国での首領で既に米国に対し引き渡し済み)は1990年代から麻薬密輸活動に従事するようになったと見られており、オット・エレナ・ガルシアが密輸するコロンビア産麻薬の保管・管理をロレンサーナ・ファミリーが行った。コロンビア産麻薬は高速艇でエルサルバドルに届けられた後、バナナ運搬用のトラックに積まれ当国に持ち込まれ、その後、米国コロンビア特別区に運ばれたとされる。ロレンサーナ・ファミリーはこの方法によりコカイン数千トンをも米国に運び込んだとされ、逮捕されたエリオ・ロレンサーナ容疑者に対しては、これらのコカインを保管した倉庫の所有者としての関与が指摘されている。

(2)現政権下での殺人発生件数の減少

24日、メノカル内務大臣は、現政権下の4年間で、犯罪発生率が7%改善し、十万人当たりの殺人発生件数については47人から41人にまで減少した旨述べた。

4. 外交

(1) ビエルマン元内務大臣のスペインからの引き渡し問題

23日、スペイン第一裁判所は、パボン刑務所占拠事件における囚人死亡事件(2006年発生)への責任が問われており同国に居住するビエルマン内務大臣の身柄について、当国への引き渡しを行わないとの判決を下した。